

視察報告

資料1

視察先一覧

NO.	視察日	視察校	所在地	設置者	選定理由	スライド
1	7/26	栃木県立宇都宮工業高等学校	栃木県／宇都宮市	公立	専門高校	※
2	7/26	川口市立高等学校	埼玉県／川口市	公立	アクティブラーニング	※
3	8/5	島根県立隠岐島前高校	島根県／海士町	公立	SGH(スーパーグローバルハイスクール指定校)、離島	※
4	8/23	横浜サイエンスフロンティア高等学校	神奈川県／横浜市	公立	SSH(スーパーサイエンスハイスクール指定校)	※
5	8/23	鶴見大学附属中学校・高等学校	神奈川県／横浜市	私立	教科教室型	※
6	8/26	聖光学院中学校高等学校	神奈川県／横浜市	私立	SSH	※
7	8/28	宮城県農業高等学校	宮城県／栗林市	公立	専門高校	※
8	8/28	宮城県迫桜高等学校	宮城県／名取市	公立	総合学科の高校	※
9	9/19	立命館中学校・高等学校	京都府／長岡京市	私立	アクティブラーニング	2
10	9/20	追手門学院高等学校	大阪府／茨木市	私立	アクティブラーニング	13
11	9/20	京都市立堀川高等学校	京都府／京都市	公立	SSH、SGH、複合化	22

※ NO.1～8の学校については、第2回部会にて報告。

9. 立命館中学校・高等学校

全日制課程(高校28クラス):普通科

【所在地】 京都府長岡京市調子1丁目1-1

【生徒数】 1022名(5月1日現在・高校)

【出身中学別生徒数】

中高一貫校

(通学地域

府内:約6割、府外:約4割)

【進路】 平成30年度卒業

進学 318名(附属大学 252名)(他大学66名)

就職 0名

その他 28名

【職員数】

校長	副校長	教頭	主幹教諭	教諭 (助教含)	養護 教諭	講師	非常勤 講師	実習 助手	学校 司書	事務 長	校医	小計
1	2	1	2	50	1	13	27	5	1	1	1	105

※警備、食堂等はそれぞれ警備会社や生協に委託

【沿革】

明治33年京都法政学校を設立、明治38年清和普通学校を設立、改称及び複数の中学校の設置を経て昭和23年学制改革により立命館高等学校を設置。平成14年に文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクールに指定を受け、現在4期目、また、平成26年にスーパーグローバルハイスクールに指定を受ける。平成26年に新キャンパス完成。生徒の課題研究などの発表の場、探究の場としてふさわしい施設・設備を展開している。

【校地平面図】



【特色】

・多様な進路を開く一貫教育

小・中・高12年間の一貫教育による確かな学力と豊かな人間性、自立・貢献の精神を育てる教育を展開。小学1年生から4年生までをファーストステージ、小学5年生から中学2年生までをセカンドステージ、中学3年生から高校3年生までをサードステージとし、その発達段階に応じて4年間ごとにカリキュラムの区切りを設け、将来の進路目標を立て、夢実現に向けて自ら学ぶ姿勢を育む。

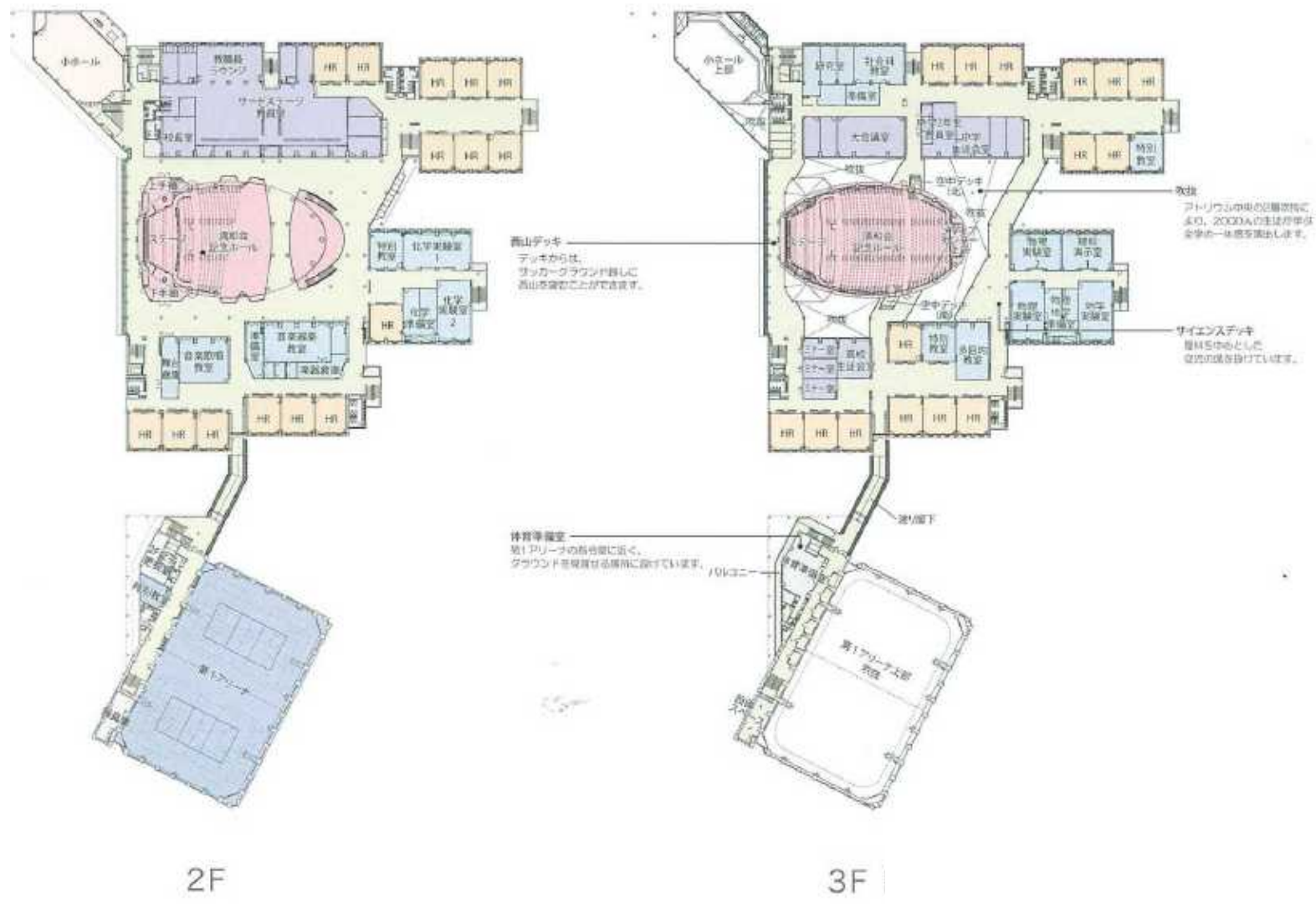
・世界へ通じる人、未来を手にする人

「社会につながる」、「国際的視野で考える」こと念頭にグローバルな視点を持ち、新しい時代を自らの力で切り開く、未来に貢献する人材を育成。高校2、3年生では、将来につながる4つのコースCE(文社)・SS(理数)・GL(国際)・MS(文理特進)を展開。CE・SS・GLコースでは「自ら課題を設定し」、「自ら仮説を立てて」、調査研究に取り組み、そのプロセスや成果を発表する「課題研究」を行う。

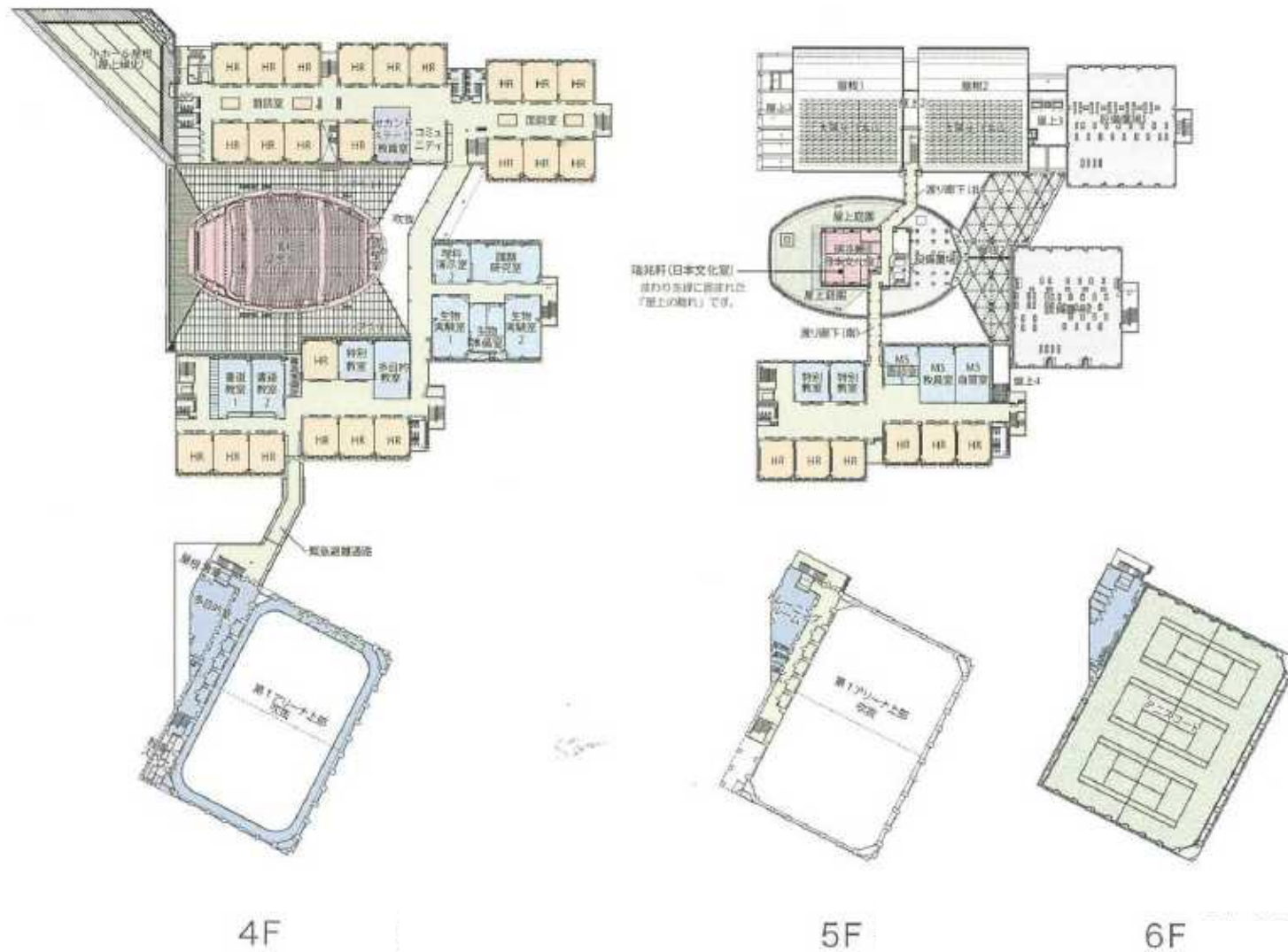


校舎

【平面図】



【平面図】



【施設の状況】

(校舎)

- ・アトリウム空間はトップライトによる自然光を取り入れ明るく開放的である。
- ・地場産の竹を中高生が伐採し、加工したものをプレゼンテーションルームやエントランスホールの天井に使用している。
- ・カーペット敷きを採用しており、大きな汚れが生じた際はパネルのようにその部分だけを張り替えることができる。
- ・アトリウムの自然換気や屋上緑化、太陽光発電など環境に配慮した施設整備を行っている。
- ・生徒の避難時に使用する備蓄品を収めた防災倉庫を整備している。
- ・最寄駅から学校までの通学路が住宅地の狭い道路なので、警備員を常時雇用して対応している。



【施設の状況】

(校舎)

- ・アトリウムに面した各フロアのオープンスペースにプロジェクターを整備しており、見せあうことを意識した発表スペースとしている。
- ・学校の核となるメディアセンターのクリエイティブエリアには生徒が自由に使えるパソコンを整備している。
- ・プレゼンテーション教室やアクティブラーニング活動を行うための教室があり、教科の枠に収まらない活動や創造的な活動のための空間が用意されている。
- ・作業中のまま、すべてを片づける必要のない実験室(課題研究室)があり、生徒がそれぞれの実験を主体的に行っている。
- ・カフェテリアは放課後も開放しており、生徒が自由に学習・談話に使用している。



【施設の状況】

(校舎)

- ・職員室は指導の観点から複数学年で構成される各ステージのフロアごとに設置、また、全教員が一堂に会せるスペースも整備している。
- ・各教科の準備室のデスクは共用であり、個人のデスクは職員室に配置している。
- ・一部の教員室にはソファや自販機の備えられた教員ラウンジ、教材作成等で使用できるPCを備えたコーナーなどが整備されている。
- ・面談室が教室の各ユニットに分散して配置されている。
- ・伝統教育や国際交流に活用できる、和室(日本文化室)を整備。





▲校舎正面



▲玄関ホール



▲クリエイティブエリア
(メディアセンター)



▲普通教室前廊下



▲普通教室前の生徒用
ロッカー



▲普通教室①



▲普通教室②



▲普通教室フロアのオー
プンスペース



▲廊下に設置された面
談室



▲理科室



▲理科室の教員机に一
体化した収納棚



▲社会科教室



▲アクティブラーニング
ラボ



▲メディアラボ



▲小ホール



▲メディアセンター(図書室)



▲MSコース自習室



▲第1アリーナ



▲第1アリーナ上部ラン
ニングスペース



▲第3アリーナ(柔道等)



▲武道場



▲第2アリーナ(卓球等)



▲屋内プール



▲屋上テニスコート



▲清和会記念ホール



▲職員室



▲職員ロッカー(奥が更衣室)



▲カフェテリア



▲日本文化室



▲和室には炉が設けられている。



▲教室棟とアリーナ棟には避難やバリアフリーに配慮し渡り廊下を複数階に設置。



▲トイレ

10. 追手門学院高等学校

高校全日制課程(12クラス×3学年):普通科

【所在地】 大阪府茨木市太田東芝町1-1

【生徒数】 1,319名(男子679名、女子640名・高校) 2019年5月1日現在

【出身中学別生徒数】

中高一貫校

(府内:約98%、府外:約2%)

【進路】

進学 349名

就職 2名

その他 57名

【職員数】 ※中・高合算値

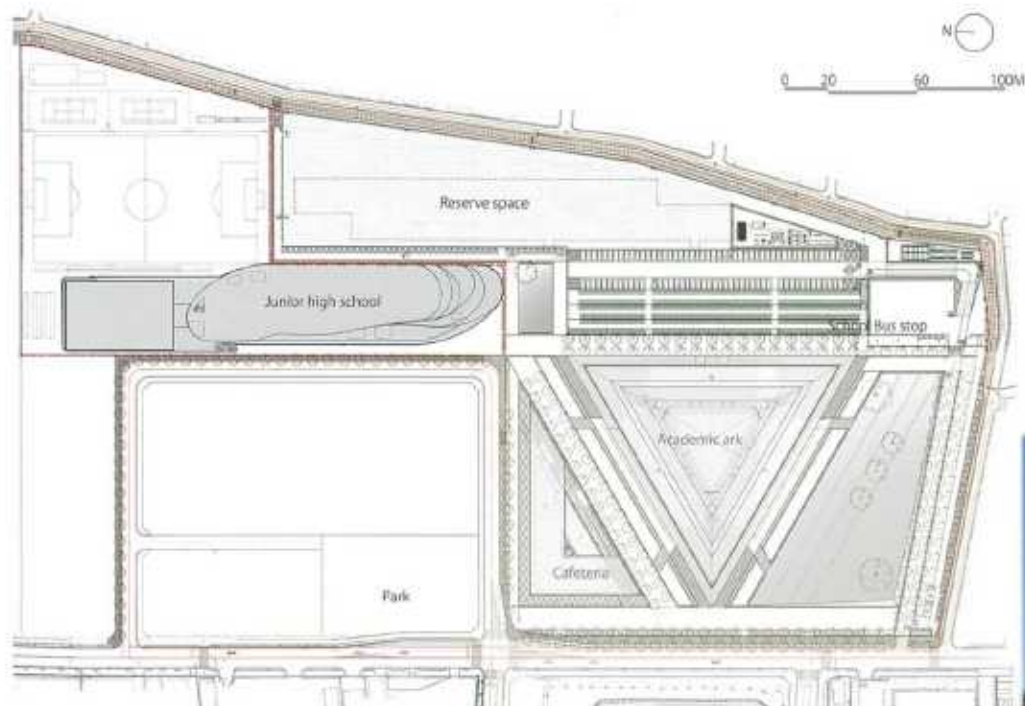
校長	副校長	教頭	主幹教諭	教諭	養護教諭	講師	非常勤講師	実習助手	学校司書	事務長	主任	主任主事	小計
1	1	1	3	48	1	25	45	0	0	1	0	5	131

校医	歯科医	薬剤師	警備員	炊事員	小計	合計
1	1	1	4	0	7	138

【沿革】

明治21年に追手門学院小学校開設、昭和22年に追手門学院中学校開設、昭和25年に追手門学院高等学部開設。平成31年に新校舎へ全面移転。新校舎は、これまでの学校のイメージを抜本的に見直した次世代型教育の拠点として「Smart Palette」「いつでも、どこでも学べる」をテーマに建設。

【校地平面図】



【特色】

●多様な学びの場の創出

「教育観」・「学習観」の転換という「考え方」(理念・方針)のもと、「多様な力」の育成に必要な3つの学び(「個別型」「協働型」「プロジェクト型」の融合)という方法論を実践する場の創出。

●先生が「教える教室」から生徒が「学ぶスペース」へ(交流の場+成長の場)

可動式の壁に象徴されるように、「学び」に応じてアレンジできる「学びのスペース」。

校舎すべてが学びの場、「学習環境一体型」校舎である。

●ティチャーステーション(先生は生徒を見守るファシリテーター)

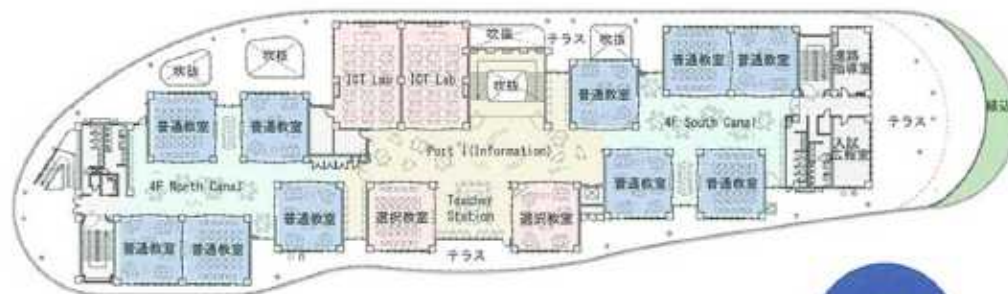
生徒の視点に立った安心、安全な「生活の場」の設置。生徒と教師との交流の場になっている。

●「脱図書室」×「電子図書システム」

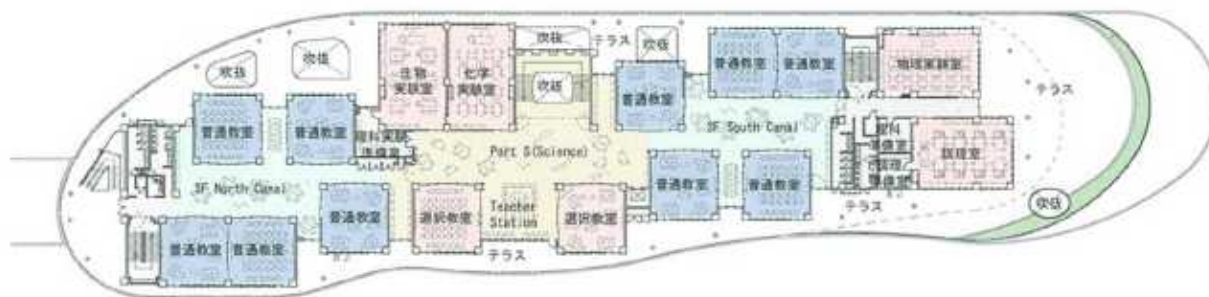
図書を各階ごとにテーマを決めて分散配置しているほか、電子図書システムを導入することにより、生徒たちが日常的に身近に本と接し、主体的・能動的な姿勢をもつことを目的としている。

●BYODによるICT活用教育にも熱心に取り組んでいる。

【平面図】

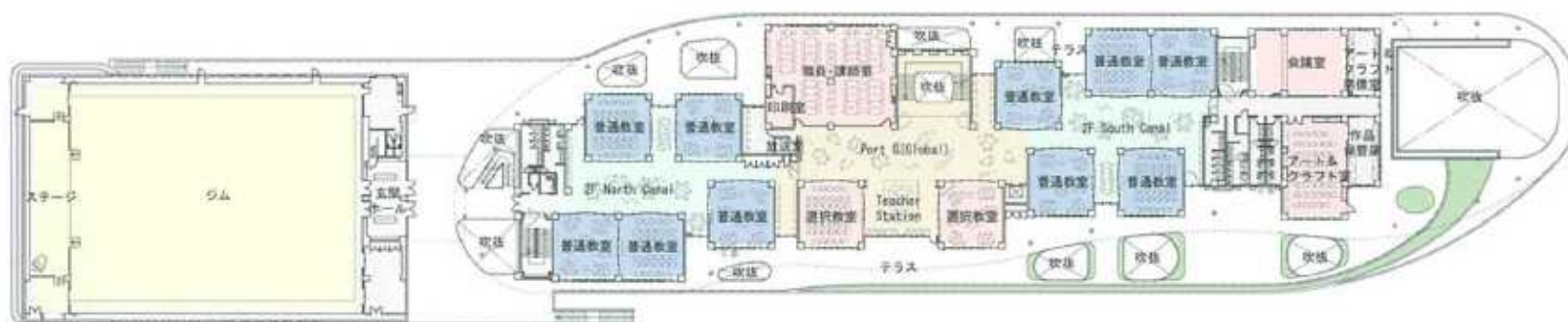


4F



3F

【平面図】



2F



1F

【施設の状況】

(校舎)

- ・設計業者と学校側の情報共有・意思疎通がしっかり図られている。
- ・校舎すべてを学びの空間とし、「脱教室」「脱図書館」「脱職員室」を掲げ、「PORT」と「CANAL」の領域を作っている。

【PORT】選択教室・特別教室・ティーチャーステーション及び関連する図書を配置(家具はキャスター付き)したオープンスペースとで構成

【CANAL】普通教室とオープンスペースとで構成し、間仕切り壁・机・椅子をアレンジすることで2教室合併や廊下との一体化、5クラス合同による学び合いも可能。(スクリーン・プロジェクターは移動式)

- ・すべての生徒が通る1階のエントランスには、生徒が様々なことに興味を持てるように、大型スクリーン(2台)と書籍を配架。
- ・階段室やホールの壁等をホワイトボードを貼っており、書き込みができる。壁や階段には授業での生徒の成果物を掲示・展示している。



【施設の状況】

(校舎)

- ・取り外し可能な教室の壁、可動式の机・椅子を整備しており、フロア全体をアレンジし、様々な学びが展開できるような施設環境を整備している。
- ・壁を一面ホワイトボードにした教室を設けており、自由な場所に書き込むことができ、より活発なグループ活動を展開している。また、ホワイトボードと壁の境目がないため、プロジェクターの設置場所が自由になり、効果的な活用が可能。
- ・各教室のプロジェクターは天井吊り下げ型ではなく、超短焦点の可動式であり、様々な教室レイアウトに対応できていた。
- ・様々な教室レイアウトに対応するためには生徒用の荷物を収納する空間の検討やクラウド化による荷物の軽減が重要であり、生徒用のロッカーを設置しているものの、収納スペースの不足が見られた。



【施設の状況】

(校舎)

- ・職員室は職員それぞれのロッカーと共有の長机を設置したフリーアドレス制であり、学年の枠を超えた対話や非常勤職員との交流が行いやすい環境づくりを行っている。
- ・各学年フロアのPORTエリアに設けているティーチャーステーションは、オープンな作りであり、生徒が気軽に質問ができる環境となっている。

(運動施設環境)

- ・人工芝のグラウンドがあり、雨天時に利用しても泥が校舎に持ち込まれない一方、石灰でラインを引くことができないので多目的な利用について課題がある。
- ・事故予防として、体育館の床はクッション性があり、ささくれ等の心配のないビニル素材を使用している。

フリーアドレスの職員室



オープンな空間のティーチャーステーション



人工芝のグラウンド



床にビニル素材を使用した体育館





▲エントランスホールの
書架



▲階段吹き抜け



▲廊下の書架・パネル



▲PORT廊下



▲CANAL廊下



▲CANAL書架とエレベーター



▲CANAL廊下



▲CANAL廊下



▲普通教室



▲普通教室



▲音楽室



▲調理室



▲多目的室



▲スタジオ(アトリエゼロ)



▲テラス
(プレゼンスペースにもなる)



▲テラス
(プレゼンスペースにもなる)



▲フリーアドレスの職員室



▲ティーチャーステーション



▲体育館



▲グラウンド



▲生徒用ロッカー



▲トイレ

11. 京都市立堀川高等学校

全日制課程：普通科・人間探究科・自然探究科

【所在地】 本館： 京都府中京区堀川通 錦小路上る四坊堀川町622-2
本能館： 京都市中京区蛸薬師通油小路東入る元本能寺南町346

【生徒数】 734名(男子362名、女子372名)

【出身中学別生徒数】

京都市内 410名

京都府内 231名

その他(府外・国・私) 93名

【進路】

ほぼ全員が大学へ進学(浪人含む)

【職員数】

校長	副校長	教頭	事務長	教諭	ALT	養護教諭	常勤講師	非常勤講師	実習助手	事務職員
1	1	1	1	51	3	1	18	9	5	6
校務支援員	育成支援員	管理用務員	学校医薬剤師	カウンセラー	合計					
2	1	4	6	1	111					

【沿革】

明治41年京都市立堀川高等女学校として創立。昭和23年京都市立堀川高等学校として開校。平成11年新校舎竣工・移転。同年、人間探究科と自然探究科を設置。平成14年SSH指定校。以後現在まで継続して指定校となっている。平成26年SGH指定校。

【校地配置図】



【特色】

・探究基礎

研究活動を通して、多くの経験を積むことを重視。研究に必須の「言語能力」を伸ばすため、生徒間・生徒と指導者間の双方向コミュニケーションを重視。

一部授業の運営を生徒に任せるなど生徒の自主性を重んじている。

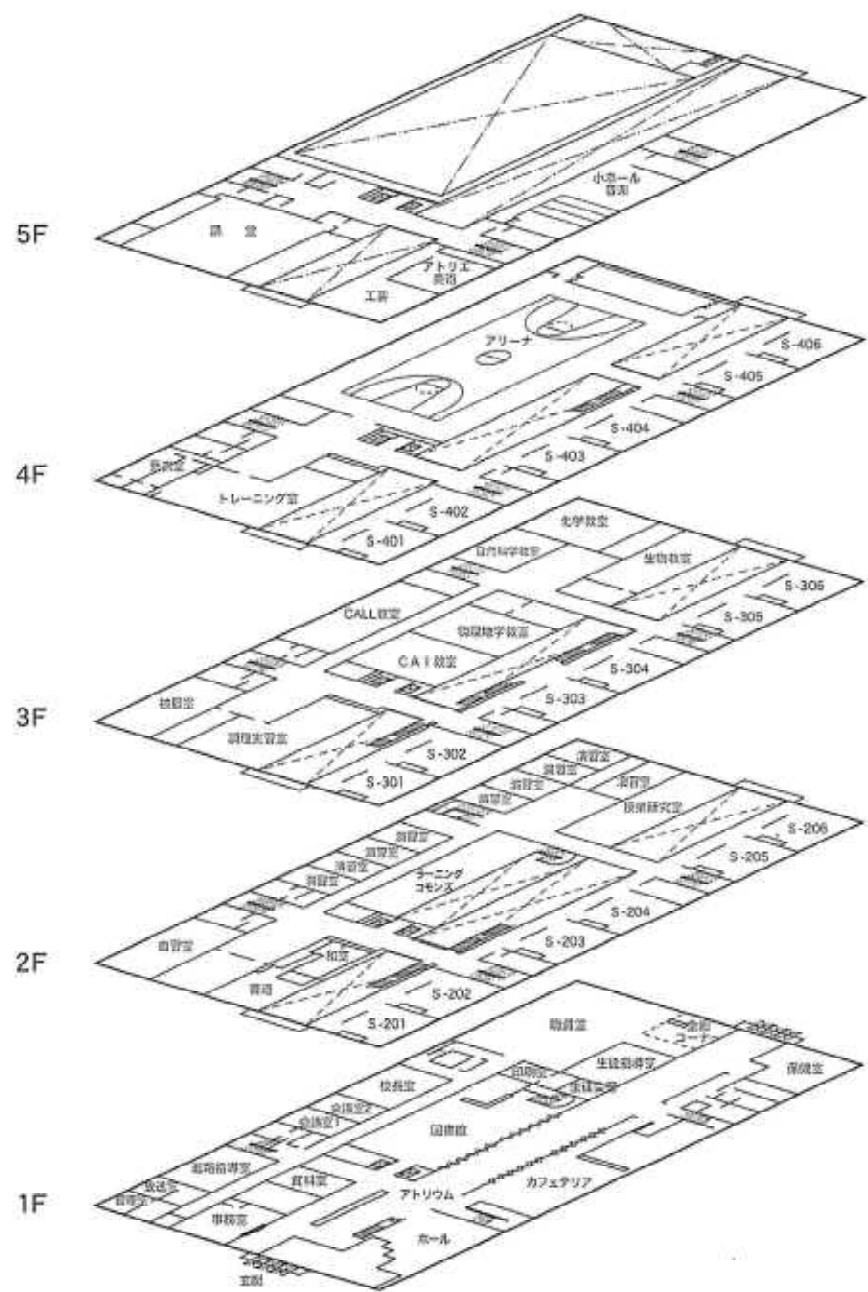
・海外研修

探究活動の一環として海外研修を実施。約一年に及ぶ準備期間を経て、現地研修を行う。研修内容は生徒に委ねられており、準備期間を通して、個別具体の研修計画をたてていく。

・リーダー・スタッフ活動

生徒が主となり作り上げる学校説明会におけるリーダー・スタッフ活動や、中学生に探究活動の体験を促進する「探究道場」におけるスタッフ活動などを通して、目的を共有する集団の一員として運営に関わることで、社会性・協調性を育成。

【校内案内図(本館)】



【施設の状況】

- ・校舎の改築にあたり、平成7～9年にかけて「京都市立高等学校21世紀構想委員会」を設置し、目指すべき学校像や教育課程、教育環境等について検討し答申がまとめられた。答申を踏まえ、現在の校舎の設計がなされた。
- ・小規模な改修を随時行うなど、京都市教育委員会が学校の実態をよく把握し、現場と一体となって計画的に校舎整備がなされている。
- ・「自立する18歳の育成」という学校目標の実現に向け、探究学習に力を入れている。アリーナ、アトリウム、講堂、ラーニングコモンズといった多数が活動できる空間があり、発表活動が行いやすい、または少ない準備で行えるようになっていた。
- ・施設の活用を生徒自身が企画運営している。
- ・実験室、演習室といった探究を深める活動ができる施設なども充実。



【施設の状況】

- ・演習室の一つはすべての壁がホワイトボードになっており、どの場所でも生徒が集まって議論を深めるなどの協働学習が行いやすくする工夫がされていた。
- ・図書室の2階に設置されたラーニングコモンズは、生徒の協働的な学びの場として活用されており、生徒の探究活動に大きく貢献していた。
- ・教室に生徒の持ち物を置く収納スペースが少なく、机周りに鞆が置かれていた。
- ・パソコンルームも含め、ICT関係の更新については今後の課題。
- ・歴史があり、地域の学校として存在している。



【施設の状況】

- ・閉校となった京都市立本能小学校の敷地内に地域の方と堀川高校が活用できる施設(理科実験室)を建設。(特別養護老人ホームとの複合化)
- ・SSHとして活動するにあたり必要な学習スペースを確保するために、旧小学校を活用した本能学舎は、市立高校の強みを生かした新しいタイプの学習施設。
- ・本館との距離はそれほど離れている訳ではないが、車の往来もある一般道を通る必要があり、通常の休み時間で教室を移動することは困難。また交通事故等の不安はある。
- ・緊急時の対応、薬品庫・備品の管理などを考えると、少人数の教員での対応には工夫が必要。
- ・地域との交流の場として活用する取組をもっと充実させることが可能。





▲昇降口



▲アトリウム



▲教室



▲広い廊下にはホワイトボードがおかれている



▲演習室



▲ラーニング・コモンズ



▲講堂



▲パソコンルーム



▲トレーニング室



▲アリーナ



▲カフェテリア



▲実験室



▲本能館中庭



▲プレゼンテーション
ルーム



▲本能ホール



▲実験室